

ジャガイモ 年間計画

1月	テーマ、テーマ理由設定	7月	看板立て、除草
2月	品種決定	8月	イモ収穫、畑の整備
3月	畝立て	9月	畝立て、種イモの定植
4月	芽だし、	10月	マルチ、除草、芽かき
5月	種イモの定植	11月	除草、保温対策
6月	芽かき	12月	収穫、販売会

実施項目

- ① ジャガイモの芽だし
- ② 収穫量の研究 (図1)
- ③ 販売会
- ④ 問題点
- ⑤ まとめ
- ⑥ 来年度やってほしいこと



図1

実践活動・結果

① ジャガイモの芽だし

今回初めてイモの芽だし作業をしたが、うまくできなかった。その理由として、2つのことが考えられる。

1つ目は、芽だしの段階で、(図2) 保管状態が悪かったこと。芽だしは、イネなどと同じように暗所で芽の成長を促進する技術である。しかし、明るいところで保管したため、イモの芽が成長せずに種イモが腐ってしまった物まであった。

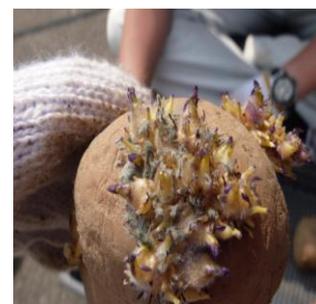


図2

2つ目は、日光育芽ができなかったこと、知識、準備不足だったことが原因である。日光育芽には、出芽が10日以上促進され、株の生育がそろいやすくなる効果がある。また欠株をし、株当たり茎数が1～2本多くなる。これらの課題を克服するためには、まず場所づくりが必要である。日光育芽は温度は低いほどよく、20℃以上にならないようにしなければならないことからハウス内で行うのが望ましい。その点、工夫が必要である。

② 収穫量の研究

秋に植えたアンデス赤とデジマの種イモを畝①、畝②、畝③に分け、実験を行った。実験の方法は、通常の畝を2つと実験の畝を2つ作り、通常の畝には、種イモを半分に切ったもの。試験区には種イモを丸1個にしたものと半分にしホットキャップをかぶせたものに分けた。

種イモを半分と丸1個に分けて行った理由は、種イモからでる芽の数の違いにより、収穫量がどうかわるかを研究したかったためである。

半分にした種イモ



畝の写真



① 通常の畝

① 通常の畝

② 実験の畝

③ 実験の畝

ホットキャップを用いた理由は、温度条件を変えて行うためである。それによりジャガイモの収穫量および生育速度がどう変化するかを研究した。しかし、生育速度も遅く、成長も途中で止まってしまったことから、夏場のホットキャップは良い効果をもたらさない事がわかった。理由としてはホットキャップをすることで中の温湿度が高くなりすぎた事と、水分不足だと考えられる。

収穫量の実験結果は、種イモ1個あたりに対する収穫量と、半分にした種イモの収穫量を比較したところ半分にしている方が確実に良いという結果になった。(図3参照)

図3	畝① (半分)	畝② (ホットキャップ)	畝③ (丸1個)
アンデス赤	3.5kg	0.1kg	0.3kg
デジマ	4.0kg	0.1kg	0.1kg

③ 販売会

平成24年12月8日に販売会が行われた。今回は、初めて自然薯以外のイモを販売したが、ジャガイモよりもサトイモやさつまいもの方が売れ行きが良く、早く完売していた。

ジャガイモは全部で24袋用意した。

うち14袋がデジマで9袋がアンデス赤、1



袋がデジマとアンデス赤のころイモにした。

デジマは、実が大きくて販売個数が伸びたが、アンデス赤は最後まで残ってしまった。

	販売数	売り上げ
アンデス赤	9袋	360円
デジマ	14袋	560円

④ 問題点

販売会を行って問題点がいくつかでた。

I. 1袋に対するイモの個数が少なかった。

今回は収穫量が少ないことから300gで売っていたが、300gだとイモが3～4個程度しか入らなかった。だから、個数をもっと増やして販売すれば売れ行きはよくなると予想できる。→お客様から実際に指摘があった。

⇒ イモの個数を増やすためには、限られた畑の中で最大限に面積を使うことが必要。また、プランターなどを使って栽培すれば、より栽培数を増やすことができる。そしてそこから違った研究や実験が可能になると思う。

II. アンデス赤はスーパーで売られていないことからアンデス赤に対する質問が多くそれに対する回答もあいまいだった。

⇒ お客様がわかるようにイモを半分にしたものの展示や、試食してもらうことで理解度も上がると思う。また、自分で食べていなかったため、お客様から「これおいしいの?」と質問された時、答えることができなかった。やはり、自分で試食しておくことが必要だと思った。

⑤ まとめ

今回初めて挑戦したプロジェクトであったが、夏に栽培したイモは失敗した。しかし、秋は成功し、来年度につながるプロジェクトになったと思う。

どうすれば収穫量が増えるか具体的な課題がみえてきたしどうすればもっと効率のよい栽培ができるかなど、良い引き継ぎができそうだ。

また、来年からは、利益向上を目的として、販売回数をあげて新しい郡上高校

のブランドになるように継続して行ってほしい。またそれに加えて新しい研究を発見して、進めてほしい。一般的な栽培物だからこそ、基礎と工夫が大切だと強く感じた研究だった。

⑥ 来年度やってほしいこと

- ・ 種イモを半分にして栽培する。
今年種イモは半分の方が収獲量が良いという発見があったので来年からはすべて半分にして行えば収獲量があがるのではないかと思う。
- ・ 畝幅を7.0 cm から3.0 cmにして定植する。
畝幅は今年7.0 cm にしたが少し広すぎたので来年は3.0 cm にして畝数を増やしてほしい。